



第8回さくらピア避難所体験

平成28年9月24日(土) ～ 25日(日)

実施報告書



①講演・避難訓練	…	146名
② A 夜の講演	…	77名
B あそ防災	…	55名
③宿泊体験・非常食試食	…	83名
④まとめと講評	…	53名
計		414名

◆スケジュール◆

24日(土)

①講演・避難訓練 【@3階大会議室】

- 13:00 受付開始
防災グッズ紹介、ダンボールベッド（～15:30 @体育館）
- 13:30 開会式
- 13:35 講演開始 ～あのことのこと～
「気仙沼避難所運営 38 日間 障害者高齢者近隣住民 250 人の生活」
（講師：宮城県障害者社会参加推進センター所長 森正義氏）
- 14:50 休憩
- 15:00 避難・救助訓練
- 15:30 終了

②講演・あそ防災 【@体育館・ロビー】

- 17:30 受付
- 18:00 (A)講演開始 ～これからのこと～
「こども・障がい者・高齢者の命を守る備え」
（講師：臨床福祉学博士 堀 清和氏）
(B)あそ防災 （協力：わたぼうし・豊橋手話通訳学習者の会）
- 20:00 解散・各自夜食

③宿泊体験・非常食試食 【@1階体育館】

- 20:30 受付、夜食配布
- 21:00 宿泊準備
- 22:00 消灯

25日(日)

- 7:00 健康チェック
- 7:30 非常食試食 【@2階図書談話室】
- 8:30 後片付け・清掃

④まとめと講評 【@3階大会議室】

- 8:45 受付
- 9:00 まとめと講評
- 10:30 解散

参加者内訳

障 害 種 別		19日				20日	合 計
		①講 演 ・避難訓練	②-A 夜の講演	③-B あそ防災	③宿 泊 体 験	④まとめ と講評	
障害者 ・ 家族（当事者）	身 体	27	7	2	5	4	45
	重 身	0	2	0	2	0	4
	うち中学生以下	0	2	0	2	0	4
	内 部	0	0	0	0	0	0
	聴 覚	8	10	4	10	5	37
	うち中学生以下	0	0	4	4	0	8
	視 覚	2	0	0	0	2	4
	精 神	3	0	0	4	1	8
	うち中学生以下	0	0	0	1	0	1
	知 的	6	3	4	9	6	28
	うち中学生以下	0	0	1	2	0	3
	発 達	0	0	0	0	0	0
	家 族	27	15	8	19	8	77
	うち中学生以下	0	2	5	6	0	13
	小 計	73	37	18	49	26	203
	うち中学生以下	0	4	10	15	0	29
一 般	介 助	0	1	0	0	0	1
	ボ ラ	20	7	15	7	3	52
	大学生・高校生	0	0	0	0	0	0
	看護師	0	0	0	0	0	0
	議 員	1	0	0	1	0	2
	民 生	0	0	0	0	0	0
	社 協	1	1	0	0	1	3
	市職員	13 (豊橋9・豊田3・神戸1)	7 (豊橋4・豊田2・神戸1)	2 (豊橋1・豊田1)	4 (豊田3・神戸1)	7 (豊橋3・豊田3・神戸1)	36
	その他	28	18	14	18	13	88
	うち中学生以下	2	0	7	4	2	15
	さくらピア	10	6	6	4	3	29
	小 計	73	40	37	34	27	211
	うち中学生以下	2	0	7	4	2	15
合 計		146	77	55	83	53	414
うち中学生以下		2	4	17	19	2	44

参加総数は414名（前年：361名）で、うち障害当事者は126名（前：99名）、障害者家族は77名（前：52名）、一般参加者は211名（前：210名）だった。初参加の方が過半数を超えた。市外（豊川市・新城市・蒲郡市・豊田市・岡崎市・名古屋市・幸田町・兵庫県）など、例年にも増して各地からの参加が増え、さくらピアの防災活動の広がりを感じた。他市職員が運営スタッフとして受付を担当し、すべての企画に参加した。

地域の消防団にも声をかけたおかげで5名の団員が救助訓練に参加いただき、周囲の方の協力も得てイーバックチェア（階段避難車）、布担架、JINRIKI（けん引式車いす補助装置）など、多様な方法で避難誘導できたことは有意義だった。

特筆すべきは、毎年恒例の「サマースクール」や「木登り体験」、広く一般の小中学生を募集した「親子防災教室」などでの広報活動が功を奏し、その場で申込みしていく親子が数多くいた。友達同士や家族で参加する小学生が増え、賑やかな避難所の雰囲気そのものであった。中学生以下の参加は障害児・兄弟児含めのべ44名（前：39名）を数えた。

内容別としては、①昼の講演146名（前年はおはなし：123名）、②夜の講演およびあそ防災計132名（前年は防災レクリエーション：112名）、③宿泊体験83名（前：71名）で増加した。夜の部は講演とレクリエーション色の強いあそ防災、2つのコースを設けたため、親子参加の親は講演、子どもたちはあそ防災と、選択の幅が広がったことは好評であった。

今後は、この活動が内外に認知されてきてはいるが、「やっていることは知っているが、自分の子どもには無理だと思う」とはじめてからあきらめている人にも参加しやすい企画を工夫していきたい。宿泊にこだわらず、新しい企画にもチャレンジしていきたいと思う。参加者や事業所、行政がこの避難所体験をヒントに、それぞれの地域の活動につなげていただくことを願っている。



【第1部】 3.11 あのときのこと 講演会&避難・救助訓練

本年度の第1部は、東北被災地から講師を招き「3.11 あのときのこと」と題し、宮城県障害者社会参加推進センター所長である森正義氏に講演をしていただいた。

森氏は、宮城県身体障害者福祉協会の会長もされており、ご本人の右足にも若干の障害がある。

当時、気仙沼の特別養護老人ホームの施設長に就いており、被災時には、地域の福祉関係者に研修を開催していたそうだ。大きな揺れで、各施設等の管理者が集った研修だったため、



講師 森 正義 氏
(宮城県障害者社会参加推進センター所長)

すぐに中止、各人はそれぞれの施設に戻った。森氏も同様であったという。気仙沼市の地形特性と各施設の位置関係を図に書いて説明していただいたが、リアス式の地形で山が海岸に迫っているため、海沿いの道路を通り、自分の施設に戻ったということだった。津波は、最初の揺れから約40分後に起こったとの事。また、大規模な火災もすぐ近くで発生したが、幸いに森氏の施設への被害はなかった。

当時の状況を伝える際、情景を思い出されるのか時々言葉に詰まり、涙を浮かべる姿がとても印象的であった。

森氏の施設は、特に指定避難所や福祉避難所として気仙沼市と協定を結んではいなかったが、その日から38日間避難所として利用者さんや地域の方を受入れ、森氏が陣頭指揮を執り、施設職員や地域の方で運営をされた。デマや情報が錯綜する中、情報通達を1日2回の食事時間のみとし、その発声は森氏のみが行い徹底したとの事。テレビや新聞の情報は、あまり正確ではなく、限られた情報も地域にとっては大変少ないものだったと言われていた。

降壇の間際に、日頃、障害のある方は「避難所では生活できない」と言われるが、有事の際は、是非とも避難所に行って、その言葉を大きな声で発信して欲しいと言われた事が大変印象的であった。また、仙台市では、福祉避難所の運営検討会が近く開催されるそうだ。豊橋市でもぜひ開催して欲しいと心より願う。

【豊障連会長 山下 徹】



【第2部 - A】 これからのこと 講演会

「障がい児者のための防災」というテーマで、臨床福祉学博士の堀清和さんの講演を聞かせていただきました。堀さんは、教育という視点からお話をしてくださいました。



講師 堀 清和 氏（臨床福祉学博士）
「こども・障がい者の命を守るを守る備え」

実はこの講

演を聞いて、改めて気付かされたことがありました。私自身、自閉症の子供を持つ母親なのですが、もし災害が起きた時、障害のある我が子も助けて欲しいという思いは当然あります。しかし突然の変化に弱い特性を持つ我が子は、パニックに陥り助けの手も振り切ってしまうだろうから、どうすることもできないだろうと諦めているのも本音なのです。だけど、こういった特性があることを周囲の人々に少しでも知ってもらい、対応方法を事前に伝えておくことができれば、我が子も

助かるかもしれない。今更ではありますが、そのことに気付かせていただきました。

では、対応方法にはどんなものがあるのでしょうか。実際の事例として、普段から散歩の習慣のあった施設では、災害時の避難の時に「お散歩へ行きましょう」という声掛けをしたところ、スムーズに避難ができたというものがありました。手を繋いだり身体を触られるのが苦手な人には、普段から移動する時にロープをつかんで移動するといったことをしてい

れば、いざという時もロープがあれば動いてくれるかもしれないといった提案もありました。

『うちの子はパニックを起こすとどうしようもないから』とか、『人の多い避難所では迷惑になるから』などと事前の準備も経験もさせずに諦めている親たちは多いと思います。しかし、普段から何気なく経験させてきたことが、いざという時に大きな力になる可能性が高いことを、この講演を聞いて感じました。

「障害のある人のことも助けてほしい」だけではなく、障害のある人にも防災教育が必要です。自分の身を守る術を少しでも身に付け、そして周囲の人に理解してもらえるよう声を出す。このことを全ての障害のある方に伝えたいと、考えさせられた講演会でした。

【育成会 会長 鈴木佐和子】

【第2部-B】 あそ防災

進行協力：レディースレクわたぼうし
通訳協力：豊橋手話通訳学習者の会

【ダンボールベッド作り】
宿泊体験で使用するダンボールベッドを組み立てて作りました。子どもたちは、大喜び。寝心地も満点？



【防災ジャンケン】
ジャンケンに勝って防災絵カード1枚をくじ引き。所定のセットを早く完成させたチームが勝ち！

【防災釣りゲーム】
フェルト製の防災グッズを釣り、グループごとの釣果を競います。
(グッズ制作協力：藤ノ花女子高等学校)



【新聞紙の座布団作り】
新聞紙8枚を編んで簡易座布団に。簡単に作ることが出来ました。



【第4部】

まとめと講評

講評者 豊橋市社会福祉協議会事務局長 松井 晴男
豊橋市福祉部障害福祉課長 大野 忠司
豊橋市福祉部福祉政策課長 夏目 茂美

初めて来ました

本田（さくらピア事務長）

まとめの話を始めます。まずは初参加の方から。

村松義（羽根井校区）

会場にあると思って毛布を持ってこなかったのが困りました。

村松和（羽根井校区/身体障害）

はじめてさくらピアに来ました。なれない場所に初めて来たのでそれだけで疲れて、夜はぐっすり眠れました。

渡辺（幸校区/身体・知的障害）

ダンボールベットを作って寝ました。はじめは寝心地がいいと思ったが、そのうちに背中が痛くなりました。避難所ではみんなで助け合うことが必要だなと思いました。

消灯後も携帯でテレビを見ている人がいてうるさかったです。

本田

消灯後もテレビを見ている人の迷惑行為について、主催者が注意する方法もあるが、訓練なので社会人としての判断に任せて口出しませんでした。迷惑をかける人かけられる人いろいろですね。

伊藤（芦原校区/防災リーダー）

校区の防災訓練を担当しています。講演を聞いたり、はじめて障害者と触れ合っているいろいろな参考になった。

資料の中の「障害者が避難所に来たら」で、**豊橋市の避難所 70 か所に絵カードが配られている**とあるが、知らなかったのが地元へ帰って絵カードを確認して、避難所での対応を考えたい。開催にあたりご協力いただいた方々に感謝します。



避難所絵カードってなに？

本田

今ラジオドラマのシナリオを見ていただいたようですが、マンガにも載っています。会場に絵カードを作った豊橋聴覚障害者協会と手話通訳学習者の会の人がいるので、話を聞いてみましょう。

新谷（牟呂校区/豊橋市聴覚障害者協会会長）

今回出来たマンガ冊子を見ていいなと思いました。昨年FMラジオで放送されたそうですが、ラジオでは私たちは聞こえないのでマンガになってよかったです。ありがとうございます。絵カードは市内の市民館等にはすべて配布したんですよ。

宿泊は少し眠りましたがちょっと肩が痛いです。次回も宿泊体験しようと思います。



本田

聴覚障害者だけでなく外国人にも活用できる絵カードを市民館に配布したのでぜひ活用してください。



跡見（岩西校区/豊橋市手話通訳学習者の会）

宿泊体験2回目です。1回目と比べて落ち着いてできました。反省は、さくらピアにも絵カードがあったのにパンを配る時使わなかったこと。せっかくあるのだから、こういう時に使わないと慣れないので、使えば良かったな—と思いました。



本田

絵カードはロビーの展示コーナーにあったのに使いませんでしたね。飾ってあるから誰も使わなかった。受付においておけばよかったですね。



豊田市行政の取り組み

和田（豊田市役所職員）

会議室の机上ではなく、実地で宿泊や食事など体験しました。看護師の配置や受付の場所等、必要最低限の情報以外は細かい指示をすることなく進めて、（避難者）それぞれが考えて行動しなければならないなど、実際に想定した取り組みで参考になりました。

成田（豊田市役所職員/身体障害）

座布団を借りて寝ました。周りの寝返りの音や話し声が気になりました。今回は訓練一泊で我慢できましたが、何日も続けば人間関係のトラブルが起きてくるだろうと思いました。豊田市でも開催する予定なので、今回貴重な体験になりました。

大野（豊橋市障害福祉課長）

豊田市は合併をして市域が広く避難所の数も多いと思います。そして豊田は海に面していないですが、豊橋は表浜と三河湾があり、津波や液状化の心配もしています。道路や橋が落ちて避難所に行くのも難しいことがあるかもしれない。みなさんも自分の家の耐震や家具の転倒防止などにも常日頃心がけてほしいです。

豊田市さんもこの訓練を参考に進めていただければと思います。

本田

豊橋市としてもこのような訓練をすすめていけますか？避難所体験企画のバトンタッチも考えていますのでお願いします。

フル参加いただいた豊田市職員の方、ありがとうございました。

下田（豊田市役所職員）

豊田市でも避難所模擬体験を実施したいが経験がないので、さくらピアの先進的な取り組みを勉強させていただくために参加しました。お願いして運営スタッフとして参加させていただき、いい経験になりました。

個人的には多分眠れると思っていたが、背中が痛くなったりして寝床作りも大変だなと思います。朝食の温かい味噌汁がおいしくて、実際にライフラインが止まった時には、何日間かはあたたかいご飯が食べられないんだと感じました。

新聞やニュースで避難所の事を聞くが、実際の体験は大切。まだまだこれからだが、今回の体験を豊田市の運営に活かしていきたいと思います。



坂口（蒲郡市/障害者家族）

夕方から参加しました。スタッフの方、ボランティアの皆さん大変お疲れ様でした。個人的にはまあまあ寝られたが腰が痛くなりました。自分の周りで出来るかわからないが、持ち帰って報告します。朝食は米が固いかなと思ったがおいしく炊けていました。

本田

お米の炊き方も固い時もありましたね。経験と実験の積み重ねで、今回は5勺にしたらうまく行きました。アンケートには少し量が足りなかったという人もいたので、「おかわりありますよ」と声をかければよかったかなと思いました。

新澤（豊川市/障害児家族）

ここにいるみなさんの防災意識の高さを感じます。私も障害児の親なので、熊本や東北で障害者はどうしているかなと疑問を持っていました。ここへ来て少しするべき行動が分かったように思います。来年もぜひ参加したいと思っています。

荒木(夏)（豊川市）

来る前に少し風邪を引いたので、うつしてしまうかなと心配しました。もっとひどい状態だったら、他の人にうつしたら悪いかから避難所に行くのをためらってしまうと感じました。

渡辺(弘)（岡崎市）

豊橋は進んでいるなと思います。NHKニュースで絵カードのことを知りました。私も手話を少し学んでいますが、社会ではまだ手話がわかる人は少ないですし、絵カードがあれば便利ですね。ろう者も筆談の準備が必要とか、講演も参考になりました。

私はヘルパーで移動支援をしています。いざという時、弱者は置きざりにされがちなので、普段から障害者自身も誘導されやすいようにするなどの心構えも肝心だと思いました。

渡辺(容)（岡崎市）

耳栓を持ってきたので音は気になりませんでした。消灯前の
ピアノや歌でリラックスできたのはよかったです。

情報が入ってこないという話もある。講演でデマの情報もあるときいたので、正しい情報を手に入れる必要性を感じました。



三戸（神戸市役所職員）

3年前から神戸市は毎年職員を派遣しています。自分は初めて。障害者、乳幼児含めていろいろな人が参加する避難所体験は全国的にもめずらしい取り組みだと思います。

神戸でも災害時要援護者支援事業をしていますが、今も福祉避難所の課題はなかなか周知されていません。発災時いったん一次避難所に避難して、自立困難な人はその後移送して福祉避難所へ行くという対応になります。国のガイドラインはそうになっています。ただそこまでたどり着くのが大変。福祉避難所に直接行くという事も検討課題かなと今回思いました。

問題は災害時に行政のマンパワーが足りない。対応するとき要援護者の情報を行政がもっていないこと。実際の対応時には障害者や高齢者施設の職員の力を借りながら判断していくことになるだろう。そういう意味でもこのような体験にもっと参加して、民間の施設とも連携していかなければということを痛感しました。

本田

今一次避難所、福祉避難所という言葉がでました。豊橋市の担当課である福祉政策課の夏目課長、コメントをお願いします。

夏目（豊橋市福祉政策課長）

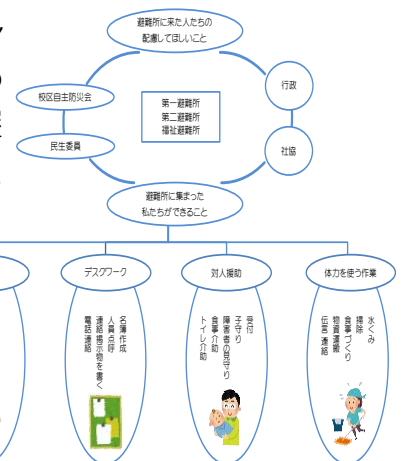
豊橋市には第一指定避難所として市民館、第二指定避難所として小中学校、その他福祉避難所が10か所指定されています。避難行動要支援者支援事業も福祉政策課で行っています。先週も台風16号で河川の氾濫が危惧される地域に9か所が開設されました。

さくらピアでは、水害の時はあまり開設は考えられないが、いつか大きな地震が発生した時には、福祉避難所として開設されるかもしれない。その時は、この避難所体験の経験が活かされると思います。

あとこの黄色の資料の中、5・6・7ページにさくらピアとしての避難所運営の手法や組織図、部屋の配置の想定案が作っているのに感心しました。市内の避難所はそれぞれにスペース、部屋の配置が違うので、それぞれの施設でそこに合った形、どこにどんな人を、掲示板はどこに、資機材の配置はどこなど、それを事前に考えておくことはとても大事だと思いました。

本田

あくまでも配置図等の案は作ったが、市役所とは協議していないので今後話し合いを持ちたいと思います。



施設職員として

北尾（吉田方校区/福祉施設職員）

頭で考えている以上のことが起こると、何をすればいいのかわからない。自分の事業所の利用者以外の人も来るということを心構えとして動かないといけないなと思いました。慣れておくことが大事ですね。

いつでも帰れると思えるから泊まったが、帰れるかどうかかわからない状態だともっとひどい状況になるだろうなと思います。

勤務先が**避難行動要支援者受入協定締結施設**にもなっているので、有事の際にはこういうことをやるんだと参考になりました。社会福祉法人制度改革というのがあって、地域の広域的な取り組みの1つとして（避難所体験を）考えてはいるが、実際は利用者対象の避難訓練しかしていません。豊橋市から発電機や投光器など用意してもらえたが、その後の運用については今日の資料や経験を共有して、勉強から始めたいと思います。



安形（福岡校区/グループホーム職員）

グループホームのほぼフルメンバーで参加しました。おとし参加したメンバーが声をかけてくれました。精神と知的を併せ持つメンバーもいるので、参加するのも面倒くさいとか怖いとか躊躇もしましたが、一人を除いてみんなで来ることが出来ました。

どのようになるかわからない状況で、参加を説得した私も不安で、「もしかしたら電話かけるかもしれません」と本部職員にバックアップを要請しての参加でした。とりあえず、意外とみんな良かったのではないかと、慣れること、寝ることもそれなりにできました。ただ自分の気持ちを自力で安定させることが難しい人たちなので、ホームのメンバーへの支援だけで手いっぱい、避難所運営のボランティアはできませんでした。とにかく無事にホームに帰ることを目標に、一つ新しい経験ができて良かったなと思って帰りたいと思います。来年も参加できたらいいなとも思いますが、顔が引きつっている人もいます。でも、来年も別の感じで参加できるといいと思います。



避難所は生活の場

本田

では、ベテランの方お願いします。

塩田（吉田方校区/豊橋市手話通訳学習者の会）

5、6回目の参加です。3人目を妊娠中。小2と年少の子どもと3人で参加しました。改めて避難所は「生活の場」だと思いました。息子がいつもはしないのに今回2度もおもらしをして、シャワーを浴びたりパンツを洗ったりしました。**実際に避難所で生活をするから洗濯をしたり、干す場所も必要だしどうすればいいんだろう**と思いました。

娘がイーバックチェア（階段避難車）を体験したり、息子は消火器の訓練と夜の釣りゲームをしたりして楽しむことができました。

荒木(登)（吉田方校区/豊橋市手をつなぐ育成会）

8回すべてに親子で参加です。毎回状況が違うなと感じています。今年はたくさん宿泊者がいたせいか少し寝付けませんでした。

去年は、食事作りなどはじめから（運営ボランティアを）やるつもりで参加した学生さんが多く集まったけど、今年はホワイトボードに「食事作りのお手伝い募集」と書いてもなかなか名前が書かれなかったのが、誰が来てくれるのかなと少し心配になりました。実際には来てくれたが、個々に声かけが必要かなと思いました。

今年は、新しい人が多かったのでくらピアの施設の中が分からないという人もいましたね。施設の説明の時間もあったほうが良かったのかなと思いました。

本田

ホワイトボードには、荒木さんと跡見さんの名前を見本で書きました。そうすればあとに続くかなと。でも書く人がいなかったのが、初参加の人はどうすればいいのかわからなかったのかなと思います。

連絡事項など、「何時に見てください」とか周知する必要がありますかね。施設の説明も、施設見学みたいにした方がいいのかな？親切すぎる説明もなんだし、実際の時にはそんなことはできないですね。



浅原（看護師）

今回は、人数が多くてドキドキしました。去年は一人病院に行った人がいたけれど、今年は体調を崩された人はいなくて朝を迎えた。何事もないことは本当にラッキー。何が起きても不思議じゃないですから。

今年は聴覚障害の人が多かったですね。朝の健康チェックのとき話しかけて聞こえない人だった時、私は少し手話を習った経験があるので会話ができたが、一般的な医療従事者は手話ができない。今日は手話通訳の人もいたが、本当の避難所ではないと思います。

昨日、熊本の友達にメールしたら、避難所体験してみたいと思っていたら、豪雨で避難所生活3日してしまいましたとの返事でした。（災害は）いつ実際起きるかわからないという事を心に刻む機会にさせていただきたいと思います。お疲れさまでした。

本田

ありがとうございました。人が増えてくると健康チェックもたいへんになってきますね。ありがとうございました。

鈴木（岩西校区/豊橋市手をつなぐ育成会会長）

親子で1回目からほぼ参加しています。森さんの話は、やはり涙がでるくらいでした。私たちのような知的障害の家族は「避難所には行けない」という人も多いのですが、避難所にぜひ行ってくださいという内容でした。**行かなければこういう事に困っていると分かってもらえない、それを伝えていかないとその先に進めません**というお話がとても印象に残りましたので、このことを今日参加していない会員にも伝えていこうと思います。

夜の講演では、障害者対象の訓練がまだあまり実施されていないので、例えばロープを掴む練習とか、はじめてのことが苦手な子どもたちに、少しでもできることをして慣れておくことが大切だと感じました。

夜は、私たち親子はいつも爆睡できています。

鈴木景（岩西校区/豊橋市手をつなぐ育成会）

洗い物をしました。ありがとうございました。



榎澤（名古屋学院大学教員）

避難所体験は、3回目の参加ですが宿泊は2度目です。前回からいろいろ気をつけなければと考えていたのですが、（防災講話の）消防署の方のお話にあったように「知っていることとできる事は違う」ということを改めて感じました。例えば避難訓練の時、地震だと蛍光灯が落ちてくるから端に行った方がいいと思いながらできなかった。ただ以前の訓練を思い出すことで徐々にできることもあるので、2度3度訓練することが大切ですね。

できたことは、去年体育館からの脱出のドアの確保が大事ということで、約束どおり非常口の近くに陣取って寝て、何かあったらすぐドアを開ける役をしようと備えることはできました。

もうひとつ、毛布代わりに**アルミの耐熱シート**を持ってきたのですがこれは失敗だったなど。寒くなって使おうと思ったら**ガサガサうるさい、ちょっとした光でも反射するのでまぶしさもみなさんに迷惑**。来年は持ってくるのをやめようと思いました。



本田

昨日の避難訓練の時、私も目が見えない人の介助を顔見知りの人をお願いしたつもりでしたが、その人は介助せず行ってしまった。別の機会に受けたAEDの講習でも、「だれか電話をしてください」ではなかなか動けない。「あなたが電話をしてください」というように、**個人を特定して頼まない**と人は行動に移れないと教えられた。みなさんも「私がやります」とかの意思表示が必要ですね。

視覚障害の方も参加しているので、見えない人の立場でひとことお願いします。



金成（視覚障害）

さきほど名古屋の大学の先生が言ったアルミのシートのかさかさと言う音。私たちにとってはラッキーなことなんです。どこにあの人がいるのか、ランドマークみたいなものなんですよ。それとアルミがきらっと光ると、少し見える人はそれでだいたいわかるんです。やはり**障害は種別によって、人によっては困るけど、他の人にはそれが嬉しいという事もある**ものです。

2年前、私たちは視覚障害者の困っている話のドラマを作成した。その日は奇しくも御岳山が爆発した日でした。ああ、あれから2年経ったんだと思っていました。2年間に熊本地震や北海道の豪雨が起きたし、この地方にもいつ来るかわからない。今回は泊まっていませんが、来年は泊まってみようかなと思います。



本田

ありがとうございます。今、2年前作ったと言ったのは、今日皆さんにお配りしたマンガの原作となっているラジオドラマの脚本のことです。視覚障害者編の話で、はじめてのところは壁伝いでないと歩けないとか、「誰か集合場所まで連れてってくれんかなあ」というセリフを当事者の方たちが考えて、素晴らしい作品が出来上がりました。それを今回マンガにしたわけです。マンガは本棚にしまわずに、ぜひ周りの方に回覧してください。



金成(典) (視覚障害)

はじめて参加しました。みんなと一緒に泊まるのは不安です。(行動のしやすい) 入口に場所を取らせてほしい。全国大会のとき、何かお願いしたいことがある時に、うちわを掲げてメッセージを発信するという方法を教えてもらいました。人が大勢いる中ではなかなか声を上げにくいので、うちわのようなものを使いたい。聴覚障害の人と同じ様に、視覚障害者も道具を使って助けを求める方法もいいなと思っています。



山下 (福岡校区)

おとしに続き2回目です。私は、4歳の時に阪神淡路大震災を経験しています。そのとき父、母、兄、私で一つのおにぎりを4つに分けて食べた事を覚えています。なので、今回あたたかいみそ汁が食べられたことが普通の避難所ではありえないことだけ嬉しかったです。



青木 (車いすを楽しむ会)

昨日の講演に参加しました。生業上(タクシー会社)、災害時の避難、支援を障害者の対応を含めて仕事と思って来ています。

昨日からたくさんメモを書きました。宿泊体験の方の感想は、昨日の森講師の話の裏付けになるなと思いました。一番心に残っているのは、2回の食事の時に情報を伝えることにしていたということ。今起きていること、支援の内容、被害状況などを知らせるということ。非常時にはいい加減な情報が飛び交うから、悪く言えば情報統制になるが、それをしないといたずらな不安や、不安に駆られた行動にでてしまうことがある。正しい情報をという話は、やっぱりいざという時に本当に必要な行動の本質があると思いました。



草場（豊橋精神障害者地域家族会くすのき会）

豊障連の障害者6団体は、平成11年から協議をはじめ13年に設立しました。今年は15周年を迎えます。（防災講話の）山田さんのお話の中に「**知っていることできることは違う**」とありましたが、当時も今も自分の障害について知っていても、他の障害の人の事を知る場所がない。豊障連を作ることによって様々な障害をお互いに理解し、行政との交渉もうまくいくようになったし、その積み重ねでこの避難所体験にもつながっていると思います。障害者団体が手を携える。今日の話の中で障害者がやってみないとわからない事がたくさんあるという気づきがあった。避難所体験のような企画がそれぞれの地域に広がっていくといいと思う。

精神の分野では、医療機関との連携がとても大事。豊橋市では保健所と精神科医療機関が協力協定を結ぶ具体的な話し合いに入っています。行政と地域が一体になった取り組みができていくといいと思いました。



本田

重度身体障害児の家族2組も泊まっていた。その団体の会長から。

中神（豊橋市肢体不自由児(者)父母の会）

8回の継続はすばらしい。熊本地震の時の避難所についてのアンケートで、46%、半分の人が福祉避難所について知らないという答えでした。福祉避難所って何ぞや、というのが現状です。

今は防災というより減災といわれている。訓練の体験をすることによって実際に起きた時の問題を減らす。（発災時に）避難所に避難しなかった人が7割。こういった体験会にも参加できない、しなかった。なぜかという避難所の環境。トイレの事や、重度身体障害者の子なら電源、吸引器の問題があるから。避難所の環境が不安だという事と、障害を持ってる人たちが行ったら迷惑をかけるから行かないという答えが全国的に見ても多い。これから私たちはどうしたらいいかと思う。行政にも何年も交渉しているが、**福祉避難所に（災害）弱者以外の人に来てしまったらどうするかという問題**もあります。一次避難所で3、4日過ごして福祉避難所に行くのがいいのかどうか？考えていきたい。体験を積んで気づきがあることは素晴らしいことだと思います。



内藤（高師校区/豊聴協）

はじめて宿泊しました。床が固いと思います。補聴器をつける
と少し聞こえるので、音がみなさんのストレスになるということ
は理解できますが、はずすと何も聞こえなくなるのでぐっすり眠
れるということが改めてわかりました。



神谷（栄校区/豊聴協）

はじめて宿泊体験に参加しました。ダンボールベッドの上に座
布団を敷いて寝ました。朝ご飯は、まあおいしかった。自分にも
できることがあればと、片付けなどを一生懸命手伝いました。



浅倉(君)（豊聴協）

反省することがありました。看護師さんと久しぶりに会って話
したら「メモ持ってますか」「お薬手帳など持ってますか」と聞か
れましたが、今日は持っていないので準備しなければと思います。

昨日の講演で一番重要だなと思ったのは、連絡すること。連絡
がないとどこに誰がいるか分からない。生死やけがなどの状況も
分からないので、連絡することが大事だと思いました。



浅倉(基)（豊聴協）

佐藤町に住んでいます。森さんの話が印象的でした。私も震災
の後仙台に行ったので、その時のことなどを思い出しながら聞き
ました。森さんが出演したビデオも見たいと思います。

昨日は雨で、（非常階段を使っの）訓練が中止になったので
すが、外でやっても良かったのではないかと思います。



本田

5月～8月まで防災タイムとして、さくらピアの利用団体みん
なに避難訓練をしていただきました。その時は雨でも外の非常階
段を使いましたが、今回は人が多いのですべて将棋倒しになっ
たりする心配があるので中にしました。私もやりたかったという
方がいましたら、今日この後、お時間のある方は見てください。

森さんの出演している映画を上映しながらの講演のやり方もあ
りますよとご提案いただきましたが、せっかく遠路はるばるきて
いただいたのでお話の時間を多くとりました。映画はまた見る機
会を作りたいと思います。



想定はできなくても
情報を持って対処する

松井（社会福祉協議会事務局長）

毎年参加していますが、だんだんと質が上がってきていると思います。いろいろな視点で実施されているからだと思います。障害当事者が訓練に参加して、どういうことで困るということがみんなに伝わっているから、そういう部分で向上しているのでは。

特に社協は障害の方との関わりが多い。災害ボランティアセンターの運営の中でも、障害を理解することは大切な事です。（ボランティア講座に参加した方が）ボランティアをしてもいなくても、地域で大勢生活していれば、おのずと障害理解が進んでいい結果になります。



昨日の講演の中で、障害、高齢の方が避難所に来ないのは困りますよというお話がありましたが、自分たちの居場所に理解を求めることが大切。地域の中に受け入れてもらうためには、**いかに障害者の生活の様子を分かってもらうかが重要**だと思います。

社協がホームヘルパー、ケアマネジャー事業等を行っている中でやはり生活支援というのが、介護支援だけではなく災害時にこの人はどこに避難するの？誰とどういう連絡を取るの？という基本的な災害をテーマにしたアセスメントの把握をする活動を重要視しています。今まで災害が起こると「想定外」という言葉がでます。事実想定は無理ですが、どれだけ多くの情報を持って対処できるのかを考える。当然困る事はたくさん出るだろうが、少しは減らせると思います。それを念頭に置きながら社協として活動しています。



森（「あのときのこと」講演講師）

ネットのニュースをみていたら、静岡県が10年ぶりに避難所マニュアルを改訂するというニュースがありました。10年ぶりですよ。10年…その間に東日本から5年半ぐらい。それが熊本地震をきっかけに直すそうです。ここには行政の方たくさんいらっしゃるし、社協の方もいらっしゃると思いますが、公的機関はマニュアルを変えるのに1~2年かかると思います。民間だったら1ヶ月2ヶ月で変えますよ。その臨機応変さを役所でもやってほしい。形を整えるのもいいが実際に役立つのか？もうちょっと教訓を生かして見直しを続けていってほしいですね。

また、昨夜泊まれた人の意見も体験も疑似体験だなあと感じながら聞いていました。私たちは38日間避難所になっていましたが、最初の3日間は皆さんほとんど眠っていない。余震があって。多くの人が横にならず床に座っていました。多くの人が家を無くしてこれからどうしようという思いでいた訳だから、眠れないとか腰が痛いとかいう次元ではない。これからどうなるんだろう、気仙沼はどうなるんだろうという思い、会話だったように思う。夜な夜なみんなに集まっていただいて、話したい人はどうぞという場を作りました。それが良かった。地域連携ということでNHKのアサイチがとりあげてくれました。新しい思いを持って街づくりのことなど話し合いました。

東北大学のシンポジウムに招かれて、（震災当時は）何をしていたんですか？と聞かれたが、寄り添う事しかできなかった。何のアドバイスも出来なかった。死体安置所をめぐって自分の子どもを探してそれでも探しあぐねて帰ってくる。そういう人のそばにいました。励ましの言葉とかそういうのは出来なかった。たわいのない話をずっと夜な夜な話していた。

疑似の体験であっても、このくらピアの体験は貴重だと思いますし、一番いいのは安倍総理大臣に来ていただくとか、マスコミはそういう話題が無いと動いてくれません。市長さんでもお願いしてみたら来てくれるかも。

本田

毎年お願いしているんですが、一度も来てくれないんです。

森

そうですね。お願いするもの自由だし、断るのも自由ですからね。先進的で話題性もあるので、続けていってほしいですね。



堀（「これからのこと」講演講師）

昨日からほんとに感心することばかりでした。電話ボックスもあるし車いすも入れるし、バリアフリーの会館ですね。でも一番感心したのは、昨日もお話しましたが1階のロビーのところに**福祉避難所の場所がわかりやすくシールで貼って示してあった**。あれはなかなか単純なようでやっているところは少ない。大阪では福祉避難所は非公開ですということもあるので、よければ撮影したものを大阪の行政に見せたいと思いますが、いいですか？

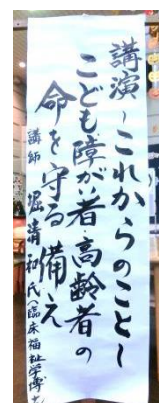


本田 市のHPに公表されている情報なのでいいと思います。

堀 そんなことはできませんと言われているので、やっているところがありますよと示したいと思います。

もうひとつ、**外国人の方が避難所に行ったらお金を取られると****思っている人が結構いる**。救急車も呼んだらお金がかかると思って呼ばない人が多い。救援物資もお金がいると思ってもらいにこない。行政の方もおられるので外国人で日本の慣習に慣れていない方に、正しい情報を発信していくことも考えていただきたい。

あとひとつ、非常食もいろいろおいしいものがあったても材料にポークエキスと書いてある。身は使ってなくてもエキスだけでも様々な理由でダメな場合もあるので、本当は業者がすればいいんですけどなかなかできない面もあるので、成分表示をわかりやすく教えてあげるとかしたらいいかと思います。



本田 非常食は危機管理課に備蓄品の期限が近いものを提供していただいています。表示のことも伝えていけるといいと思っています。



山下徹（豊障連会長）

このおはなしの中で「準備」という言葉がたくさん出ました。経験することでだんだん準備が上手になってきました。今回は障害当事者やはじめての方の参加が多く、また行政の方も大勢参加していただいて嬉しく思います。豊田市から来た行政の方もいて、この体験がどんどん広がればいいと思います。豊橋市の行政の方も、実際の避難所開設の時役立ててくれるといいなと思います。

さくらピアが現実的に避難所として開設されても、ここにいる職員は避難所要員ではありません。維持管理等を多少やると思いますが、**実際に運営するのは行政の要員とそこに暮らすみなさんが運営**します。その部分もだんだん準備していく必要があるなと思っています。

障害のある方は言えば何でも全部やってもらえると勘違いしている人がいる。先ほどの筆談するためのノートの話も、2年前にろうの方と会話した記憶があります。その時も持っていなくて2年後の今日も持っていない。やはり当事者の準備として必要な事だと思う。お互いに必要な物を持ち寄って快適に暮らすというか、不便を減らしていくことが必要。避難所体験で経験して、聴覚のみなさんこれからはノート持って歩いてね。小さいノートでいいと思うので持ってください。

視覚障害の方から、さっき光る物の話もでました。まだまだお互いに知らないこともたくさんあります。身体の人にも精神の人にもいろいろ問題があると思います。その時どうすれば解決がしやすいのかいろいろなところで考えていくべきです。今後、僕たちはまだ一度も呼ばれていませんが、豊橋市に**避難所の運営委員会があるのかわかりませんが、そういう場所で障害者の当事者の意見を取り入れて欲しいし、高齢者の意見も取り入れていくべき**。そういう取り組みが始まっていけばいいなと思います。森先生から行政にどんどんお願いしろと昨日教えていただいたので、僕らもどんどん声をだして周りに訴えていく活動もしていきたい。2日間で何かが身についたと思うので、町に帰っても家に帰っても活かしていただければと思います。本当にお疲れさまでした。

本田

さくらピアは3月11日に避難訓練と防災教育チャレンジプランの報告をする予定です。3月11日（土）にぜひお集まりください。



① 講演・避難訓練

- 補聴器をしていてもところどころ聞きづらかった。手話はできません。もっともっとまわりからの声がほしいです。学習障害者にも分かりやすい説明が必要です。(難聴・発達障害)
- 私は階段では避難できません。
- 細かい部分で忘れていたことを再確認できたし、講演も体験者でないとうからないが知っておかなければならないことを学べた。
- 子どもの障害のせいで避難所へ行くのをためらうのではなく、行って個室など要望を出すことの大切さを確認しました。地域で訓練を重ねて備えていきたい。
- 訓練の時ちゃんと頭を守って身体を低くすることが自分でできていて驚きました。多分学校等で教えてもらったと思うのですが、何事も“知る”“体験する”事は大切なんだと改めて思いました。(自閉症 母)
- 様々な障害のある方と一緒に行動、訓練出来る機会があることはいいと思いました。
- 2階より滑り台みたいな訓練をやってみたい。過去さくらピアで体験したことがあったから。
- 講演で言われた「障害があっても大変でも避難所に行って下さい。そうしないと何もすすみません。」深く心を打たれました。参加できなかった人にも伝えたいです。
- 私たちも障害者のことを地域の人に知ってもらいたいのので、災害時の避難訓練を考えています。(今度実施します。)参考にさせていただきます。
- 一般の方の防災訓練など地元でも行っていますが、障害者を始め弱者の訓練はまだまだなのでぜひ行ってもらいたい。続けていただきたい。



“知る” “体験する”
事は大切



災害弱者の訓練は
まだまだ・・・

アンケート（2／8）

- 以前より体験した人の声、とくにいろいろな人を見てきた職員側の話を聞きたかったので良かった。
- 自分たちの町で障害者の人たちと健常者の人たちと一緒に避難訓練の計画をしています。勉強になりました。
- 災害に備えるためには日常からのつながりが欠かせないと感じる。コミュニティの再構築がなされる中で訓練も効果が出るし、障害者も助けられ避難所に向かう事が出来ると分かった。
- あいにくの雨でしたが、晴れた日の訓練も参加してみたいです。出張版があれば他のスタッフにも勉強になると思いました。（福祉関係者）
-
- 初めて消火器をさわり、消火体験をしました。
- 具体的な話が聞けて良かった。障害者の支えができるといい。障害者や弱者の知り合いも増やしていきたい。
- 講演内容が実体験で分かりやすかった。周りへも伝えていきます。
- 消防 山田さんの「知る事」は本当に大切だと思いました。救助者であり救援者にもなりうることをしれて良かったです。
- 今週（自分の働く）施設で避難訓練をし、避難場所を皆さんに覚えていただきました。でも実際にスムーズに誘導できるだろうかと心配です。移動先でも行動できるように学んでいきたいです。



日常からの
つながりが
大切です





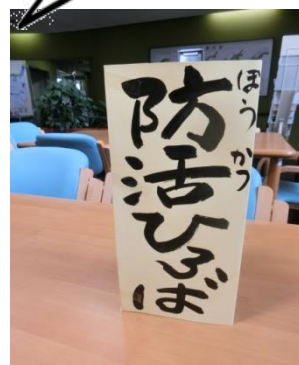
② A講演「これからのこと」

- 知っておくことの大切さを感じた
- 自分の身を守りながらまわりの手助け等を少しでもやればいいです。
- 障害の種類についての対応や違いが分かった
- 本当に、障害のある人は「困った人」ではなく「困っている人」です。
- 見た目に障害があるとわからない人でも、おかしい人と思わずに困っているのではと想像力を働かせられるようになりたい。
- 障害者自身の立場からの災害に対する心構え等も聞きたかった。
- 障害者にスポットを当てて下さった点はとても良かった。何があっても怒らずに、いつも通りの支援をしようと思います。（福祉関係者）
- お隣の家に自閉症の人がいるので今日聞いたことを家族に話してみようと思います。
- 普段の生活の中で少しでも意識でき、その時の為に力をつけられればいいと思いました。

「困った人」でなく
「困っている人」。
想像力を働かせて・・・

防活ひろば

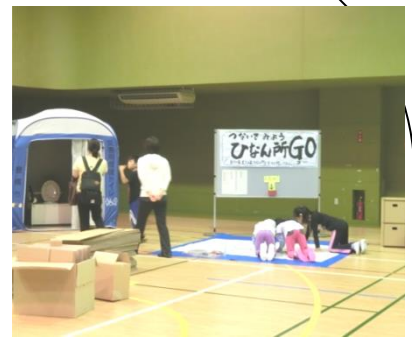
皆さんの交流スペース



豊橋防災V C活動報告

②Bあそ防災

- 新聞紙で座布団を作るのは楽しかった。
- 分かりやすく説明してくれたから、発達障害（LD）の私でも参加できた。自分ができない事を名札に書くことで、手伝ってもらえ楽しかった。
- 手話で分かりやすく教えてくれたので、良かった。（聴覚障害）
- 防災つりゲームが楽しかった。
- さいがいのときにやくにたちたいです。（8歳）



ひなん所GO

大きな地図で
避難所と家をつなぐ



段ボールベット組み立て競争



JINRIKI

けん引式車いす補助装置



新聞紙で座布団



防災じゃんけん

災害があった時、
何が必要？ゲームを
しながら学びます。



防災つりゲーム

② 宿泊体験と非常食試食

- 体育館で、避難した方と一緒に寝起きする。初めての場所で勝手が解からないだけでも緊張して熟睡できないのに、これにライフラインが止まり、余震が頻回にある状態にあるならどうなるのかと真剣に考える機会になりました。
- 体育館の床で寝るのは、思っていたより床が硬くて痛かったので、自分なりに工夫する点だなと思いました。
- 災害時に段ボールベットがあるだけで寝起きの便利さ、自分のテリトリーが何となくはっきりしているようでの安心感。
- 来訪後、最初に渡された名札は、災害時にはとても大切な事だとすごく納得した
- 宿泊用の段ボールベット、マットの片付け方、写真があると解かりやすいと思いました。数の把握もできると思います。
- 車いすの方の為に出入り口に履物を置かないようにした方が良いのでは。
- 消灯後もＴＶを携帯で見ている人がいて、聞き取れない音がとても気になった。スタッフが注意してくれると、とても有り難い。
- 思っていたよりもすぐに寝れましたが、やはり知らない人達と一緒に寝るのは、抵抗があります。
- エレクトーンの演奏サービスと静かな歌で、気持ち良く眠りにつく事ができました。ご協力頂いた皆様ありがとうございます。
- 体験すると防災用品の準備に対しても考え見方が変わったと感じました。考えることも大事ですが、体験することはもっと大事な事だと思いました。
- 安心感は、難しくても周りの人とコミュニケーションが取れていれば良いのかもしれない。

自分のテリトリーが
わかると安心



小さな音が
気になる



子守唄のおかげで、眠れた



- 一度体験したいと思っていました。本当にこういう生活をずっとしている人たちの不便さや逆にどんな状況でも工夫で、少しでも快適になる事も勉強になりました。
- 自分は聴覚障害者だけど、周りの人から普通の人に間違えられてしまうので、分るように印があると良いと思った。（例えば、名前の所に書くとか、シールを貼る等）自分の家のように寝れたので良かった。二階へ行って食事前にアナウンスがあったが健聴の友達と一緒にいたので、通訳をしてもらえたがもし居なかったら分らなかったなので、その事を考えてほしい。
- ここまで人数が増えると朝の健康チェックの方法を考えなければ難しいと感じた。実際の避難所には、手話通訳者も居なければ、日頃聴覚障害者との関わりがない医療従事者の方が圧倒的に多いであろうことを考えると最低限筆談できるもの（紙、筆記用具）がないと困るではないかと思う。今回聴覚障害者の参加が多かった為特に強く感じた。
- 非常食大変美味しかったです。災害の時に温かい食事が出ると心が温まります。
- 今までよりも宿泊する人が増えて、避難所らしくなり、やはり音が気になりました。たぶん本当ならこんなものではないと思ったら気が重くなりました。自分の年齢もあるのか寝付けられず、何日も続いたらととても大変になると実感しました。障害の息子も寝返りが多く、眠りが浅いと感じました。
- 寝ている時、人が近づく音がすると荷物が盗まれないだろうか心配してしまうと思いました。仕切りがあればその不安もなくなるのかな？
- いびきがうるさかった。夜が長く感じられた。
- 朝食のお味噌汁は、具たくさんでとてもおいしかったです。報道等で知った「温かい汁物がうれしい。」ということを実体験できました。

不便も工夫で、
少し快適になる

聞こえない。
アナウンスだけではわからない。

紙と筆記用具がないと困る



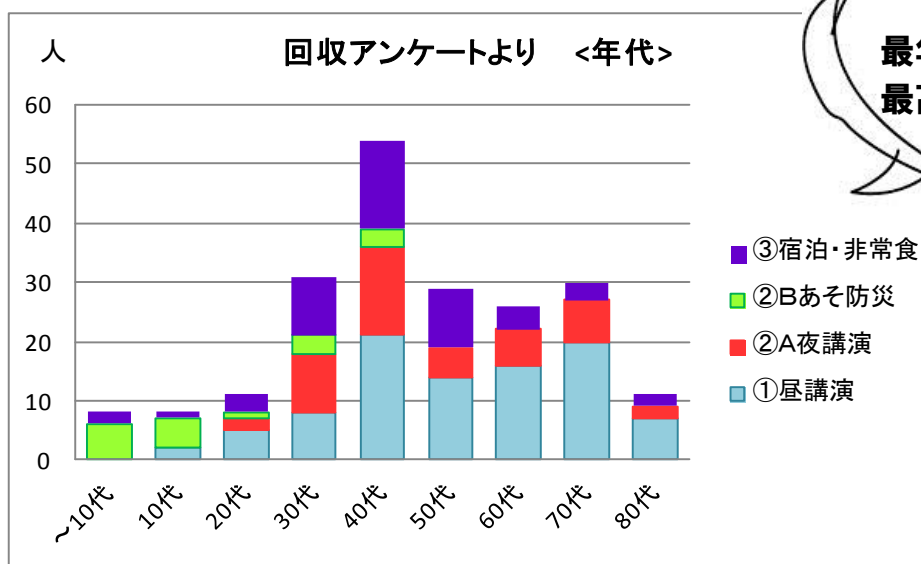
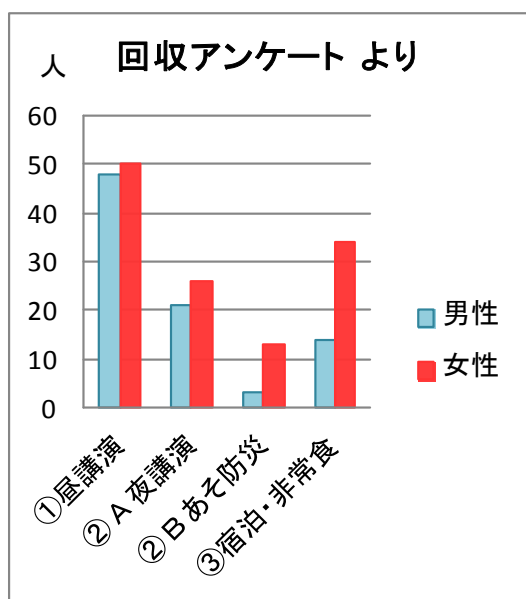
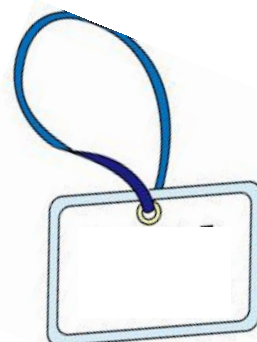
「温かい汁物が嬉しい。」を実体験



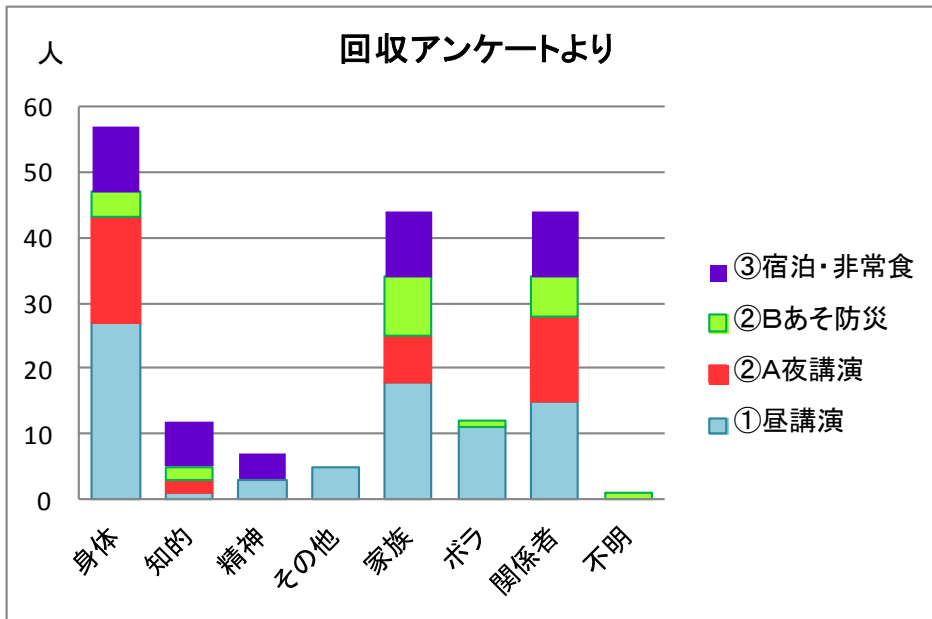
子どもも
お手伝い

- 看護婦さんがいて安心した。
- ご飯を作ったりビニールシートをたたんだりする体験をさせて頂くのも良かったです。もう少し障害者の方々と触れ合う機会があると良かったです。お互いの簡単な自己紹介とか、こういう事に困っているから助けてほしいか具体的な打ち明けがあるとなお良かったと思いました。
- パッと見て障害とわからない人、その家族は、常に避難所等で、家族の事情を説明しなければならないので、理解されるかという不安があります。今回も別室で宿泊させて頂きましたが、それでも場所が違うので、なかなか眠る事が出来ませんでした。静まりかえっている体育館でねるのであれば、わが子は、とても避難所には、居られないとつくづく感じました。

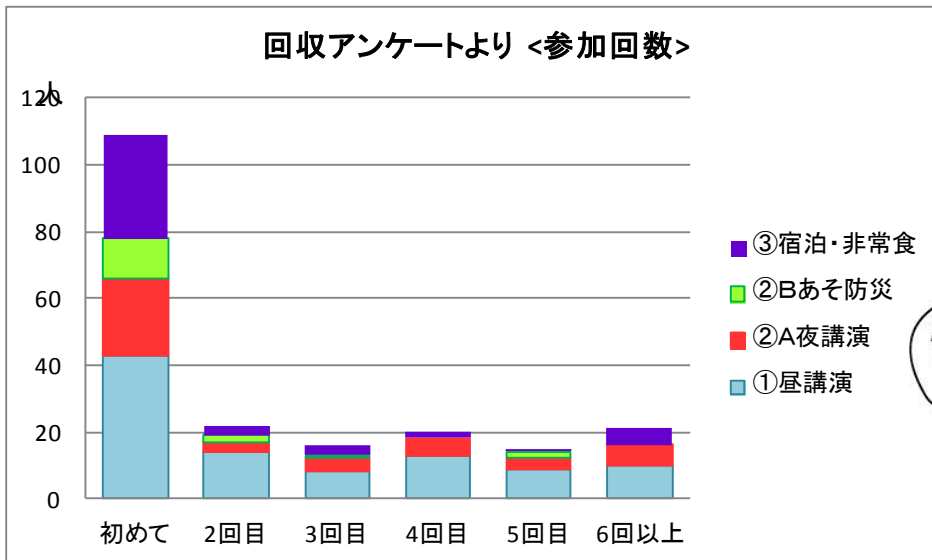
看護師さんが
いると安心



最年少は 3 歳
最高齢は 89 歳でした



障害のある人が
たくさん参加。
支える人も一緒
に体験



初めての人が
多かったね



配布物：

- ① 講演・避難訓練 パン缶・マスク・ティッシュ
- ② A講演 マジックパスタ・水・マスク・ティッシュ Bあそ防災 えいようかん・水・マスク・ティッシュ
- ③ 宿泊 パン・水・マスク・ティッシュ
- ④ まとめ マジックパスタ・防災笛

■考 察■



◆講演 3.11 あのとこのこと◆ 参加者146人
講師を宮城県の手話通訳士に紹介していただいた。
5年たって、なおパワーポイントで3.11の大きな画像
を見るのはつらいとおっしゃっていた。
避難所となった施設職員の思い、ボランティア、眠れない夜、一瞬で何もかも無くなる恐怖、姿の見えない障害者、福祉避難所の課題等、心痛む経験談をお話いただいた。参加者も例年以上に真摯に耳を傾けていた。

◆防災講話◆

避難前の15分間という短い間だったが「知ってることと出来ることはちがう」というキーワードでわかりやすく説明していただいた。



◆避難訓練◆



雨のため室内階段を利用した。訓練放送に従って待機したあとロビーへの避難、布担架、イーバックチェアでの救助訓練をした。布担架は使い方が難しい。
雨でも外でやったらどうかとの意見もあったが、肢体不自由の人や高齢者も多く訓練でそこまでのリスクは負えないと判断した。視覚障害の男性の介助を本田が正面にいた人に頼んだつもりだったが、伝わっていなかった。頼まなければ誰かが申し出たのか。見えない人が「だれか誘導してください」と発すれば動いてくれたのか。見かねた職員が誘導した。

◆講演 これからのこと◆ 参加者77人

ロビーで開催。豊富な資料でたくさんの情報を伝えてくれた。障害者の訓練はまだ実施しているところは少ない。運営者側に対しての話が多かった。当事者が個人で取り組む課題の話も聞きたかったとの意見もあった。



◆あそ防災◆ 参加者55人（うち中学生以下17人）

新しい防災つりゲーム、防災じゃんけん、新聞紙で作る座布団をレクリエーションボラのグループが盛り上げてくれた。防災釣りゲームは、チャレンジプランの報告会でヒントを得てゲームの小道具を作った。夏休みの親子防災、サマースクールでも実施してPRし、宿泊に親子参加の増加につながった。近隣の高校生に小道具作成を協力いただいた。

◆宿泊◆ 参加者83人

○バックッキング ペットボトルで漏斗をつくり事前に軽量カップを作って分量を示しておいたのでスムーズにできた。ゴムの止め方が少しむずかしかったが何度かやっているものでコツがつかめた。前年1合で作って少し固かったので0.5合にしたらうまく煮えた。何事も回数を重ねていくと上達する。



○おやすみ子守唄 歌声教室の講師に子守唄を歌っていただいた。リラックスできてよかったとの感想。

○ろう理容店の出張利用室 恒例になってきたので楽しみにしている人もいるようだった。子どもも高齢者も切ってもらった。



○ダンボールベッド あそ防災の中でベッド組み立てゲームをして準備をしてあったので宿泊者の組み立て個数が少なくて済んだ。小さな子どもでも働き手となって楽しんで体験ができた。

- 電話で申込みした人で、毛布を持参しなかったのが貸してほしいとの申し出があった。赤十字の毛布を2枚貸した。
- 重身の2家族は和室、90歳の高齢者親子はトレーニング室ベッドで就寝。



- 看護師は 居場所を明確にするためにトレーニング室。朝、名簿を手に一人一人の健康チェックをしたが、人数が多くて時間がかかった。今回は大きな病気の人はいなかった。少し手話経験のある看護師なので、ろう者とのコミュニケーションもできた。
- 10時に消灯、エアコンも切った。ゲーム中の子ども、携帯を見る大人等いろいろだった。

◆朝食◆

みそ汁の材料はJAとよはし、市内米穀店から米も提供いただいた。前日の夜、宿泊の方と4人でサトイモの皮を剥きながら話をした時間が、ゆったりして本田個人は楽しかった。手仕事をしながら語合う場も作れたらよいと思う。今回は申し込みの段階で80人を超えていたので、社協でアルミの皿とお椀を借用した。アルミのお椀はみそ汁を入れると熱くて運べず苦勞したが、大きな不満を述べる人はいなかった。昨年、漬物を共同で食べるようにテーブルに置いたら、遠慮箸で残ってしまった。今年は、アルミケースに小分けして配ったのは良かった。調理や片付けは宿泊者が協力してできた。



◆まとめの話◆

参加者からの感想で、また新しい発見があり実りのあるまとめの会だった。
参加できなかった人も、報告書を読んで防災対策に役立てていただきたいと思います。

◆展示◆

- ・豊橋防災ボランティアコーディネーターの会活動広場
- ・さくらピア避難所の歩み
- ・ラジオドラマ視聴



◆ひなん所GO◆

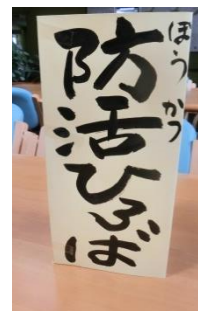
- ・2×3メートルの白地図に、福祉避難所や協定施設の位置を記入。自分の家からの距離などを確認してもらう体験。
- ・福祉避難所、災害時要援護者受入協定施設配置図
- ・ダンボールベッド、車いす用簡易トイレ、ダンボールトイレ、災害用テント、車いす用人力

◆防活ひろば◆

参加者同士がおしゃべりをする場所としてロビーに設定したが、詳しく説明をしなかったせいか、夜は体育館で過ごし、消灯後はわりと静かだった。

学校形式にはしない方針で、極力あれこれ指示をせずに運営している。

「話をしたい人は、ロビーで話してください」くらいのアナウンスが必要であったかもしれない。





◆マンガ「障害者が避難所に来たら」◆

2年前の企画の防災ラジオドラマをマンガ化。

市民でマンガ家志望の人を要約筆記ボランティアの人に紹介してもらった。図書館や大学などいろいろ苦労して探して巡り合った方で、絵もきれいでセンスが良く満足している。今後、市内公的施設の他、民間の美容院、歯科医院、飲食店などにも配布し、多くの市民に読んでもらい、障害者理解を広げていきたい。希望者には、1冊100円で販売します。

◆次回の開催に向けて◆

まとめとアンケートに「また参加したい」という感想を多数いただき感謝している。また、運営の職員に労いの言葉もいただいております。

平成21年から、はじめの5年間は障害当事者の防災意識の向上を主たる目的に、指定管理第2期の3年間は「発信」をテーマにラジオドラマを作り、CD化し、マンガ本を発行して、一般市民に啓発する活動ができた。

市内外から問い合わせや講演の依頼を受けて何度か出かけたが、基本は自分の居住地の避難所の充実や障害者理解が目的なので、会館の維持管理が主たる業務であるさくらピアの事務所企画の宿泊体験は今回で終了としたい。

大きな理由の一つは相模原の事件である。今まで、宿泊時に「病気が重くなる人がいたらどうしよう」「知的障害の人が迷子になったらどうしよう」「高齢者が転んでけがをしませんように」等の内部起点の問題だけを心配していた。

多少の体調不良はあったものの、無事故で8年間を過ごすことができたのは幸運であった。あの事件の後、市に要望して侵入者対策の研修を開いていただいたが不安が消えることはない。「悪意のある人が宿泊に申し込んでいたらどうしよう」「夜、悪い人がきたらどうしよう」と今年の宿泊中止も考えていた。

もうひとつは、さくらピア避難所体験は、防災意識を持ってもらうためのきっかけづくりの場所であり、地域や本当に自分が行く場所について自ら考えることが大切だからである。NHKのインタビューに「これからどんなところを強化していきますか？」と問われたが、「強化は考えていない。」

さくらピアは、障害者の交流施設として、日常業務やスポーツ文化生涯学習など、障害者が求めている活動の場の拡大と充実を図りながら、**防災活動も日常生活の延長線上にある**ことを伝え、共に体験し備える活動をしていく。来年度は、防災運動会とお昼寝体験を軸に、日帰りの体験会にする予定である。

誰でも避難できるよう

豊橋・障害者福祉会館 利用団体が訓練

豊橋市障害者福祉会館さくらピア（同市東新町）の利用団体が「防災タイム」と題し、利用団体の活動時間中の避難訓練に取り組んでいる。五月から八月末までに約五十団体が実施し、本田栄子事務長（五）の指示に従い、障害に応じた避

難経路を確認する。

二人が車いすを使う「七宝焼サークルえな

で二階の調理室から出火したと想定し、二階の非常口から外に避難した。

車いす利用者は、エレベーターがないと、一人では下の階に下りられないため、逃げ遅れた場合などに施設外部からも確認できる二階ベランダに出る経路が示された。

めくる」は十七日の防災タイムに参加。「防災ラジオドラマ 障がい者が避難所に来たら」を聞いた後、地震



非常口から二階ベランダに出る「えなめくる」のメンバー＝豊橋市東新町のさくらピアで

車いすで避難した豊橋市つつじが丘の近藤憲美さん（四）は「非常口から外に出るときの段差が怖く、補助者がいないと大変。知らなかった経路も分かり、参加してよかった」と話した。

夜間に避難訓練を実施した市聴覚障害者協会の代表者からは「避

難経路の照明が暗く、手話が見えなかった」などの声があり、さくらピアは危機管理マニュアルに反映させていく。

さくらピアは毎年九月、施設内に寝泊まりする避難所体験を行っている。各校区市民館でも取り組んでもらえば」と話した。

（相沢紀衣）

平成 28 年 5 月 20 日(金)
中日新聞

防災タイム （H28 年 5 月～8 月実施）

- ・障害者 263 人
- ・健常者 286 人
- ・避難所体験参加経験あり 109 人
- ・避難所体験参加経験なし 355 人
- ・公園まで 一人で逃げられない人 81 人

豊橋の「さくらピア」で初企画

頭巾制作や
手話講習も

地域の障害者理解を促進する目的で開催。夏休みを利用して親子が防災と福祉の両方を学んでもらう機会に―と初めて企画した。1部では豊橋防災VＣの会の尾崎公枝さん

要と思われる手話単語などを勉強した。

参加親子は「トイ」「逃げる」「分ける」「よい」「家」「おいで」などを順に教わり、「逃げる」「一緒」を合わせて

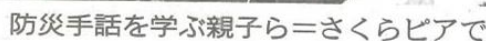
「一緒に逃げる」と
使うことなども学ん
だ。

市内から参加の佐藤恭子さんと娘のつぼみさん（南稜中1年）は、「やぐらピア」の催しはためになるので以前からよく参加している。手話で自分の名前は言え

るが、校区の表現など初めて知ったことも多い。いろいろな事が学べて満足」と語った。同館では今

後も夏休みを使い、一般向けに福祉の催しを企画したいとしている。

（田中博子）



(田中博子)

平成 28 年 8 月 3 日(水)
中日新聞

親子で防災教室
手話などを学ぶ

豊橋の障害者施設

防災頭巾の作り方

災害時に使える手話を

「親子防災教室」

カ七月三十日 豊橋市

夏新田の「隨害者福祉

た。

市内の親子六十九人

力参加。
防災頭巾作り

ては、防災に取り組む

市且団体のふたつにた

主 () 下 () 具 () 月 ()

布団を縫い合わせて作る方法を教えた。

は「漫画で耳の聞こえない人がいると知

聴覚障害者や手話学
り、自分で少し勉強し

習者による手話講座も
六つも新たに

「あ、参加者は一逃に覚えられた」と話し

二、新「民法」

「雨」という意味の手話を習う参加者＝豊橋市東新町の市障害者福祉会館で

害時に役立つ
手話を学んだ
り、自分の名
前を手話で表
したりした。

鷹丘小学校
五年の上田悠
貴奈さん(10)



平成 28 年
7 月 31 日(日)
東愛知新聞

参加者数
34 家族 73 人

シナリオをマンガ化

豊橋障害者（児）団体連合協議会（豊障連）と市障害者福祉会館「さくらピア」が進めてきた、障害当事者や近隣住民らが制作した「防災ラジオドラマ」のシナリオをマンガ化した、「防災ラジオドラマ マンガ編」障害者が避難所に来たら」が完成。24、25日に行う「さくらピア避難所体験」参加者に配布される。（田中博子）

(田中博子)

マンガ化したのは、一昨年9月の「避難所体験」で、参加した障害当事者やボランティア、行政関係者、近隣住民ら61人が一緒に制作した防災ラジオドラマのシナリオ。豊橋に震度6の大地震が起きてライフラインが止まった想定で、避難所へ避難した人々の身体や聴覚、知的、視覚、車イス利用など障害のある人を含めた地域住民が集まる場面を通して描いた内容だ。

防災科学技術研究所主催「第5回防災ラジオドラマコンテスト」脚本部門で最

優秀賞に輝いたほか、同シナリオを音声化したCDは翌年の同コンテストで特別賞「作品活用賞」も受賞した。

音声が一過性であること、聴覚障害の話が扱えなかったこともあり、幅広い層の市民に知ってもらいたいとマンガ化を考えていたところ、ボランティアから市内在住のマンガ家を志望する後藤加菜さん(20)を紹介され、制作を依頼した。

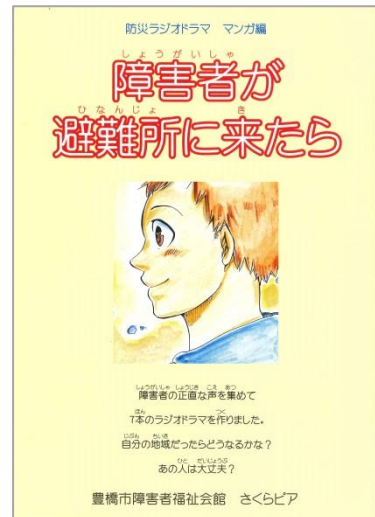
後藤さんは市内のスーパーに勤務。仕

事後や休日には作業し、透明水彩絵の具を使ってオールカラーで仕上げた。「自分もシナリオを読んで知ったことが多かった」と後藤さん。「困った際にした方が良いこと、してはいけないことがよく分かるよう気をつけて描いた。話をまとめるのに苦労したが、今後も依頼があれば協力したい」と話す。原稿を見た障害者からも「分かるややすい」と好評で特に聴覚障害者らに喜ばれたという。

マンガはA4判、31ページで3000部発行。避難所体験参加者に配るほか、市内の学校・市民館などに閲覧用に進呈し、市内医療機関や飲食店などにも声を掛ける予定。一般希望者には登録連が1冊100円で販売も。問い合わせはさくらピア(05332・53・3153)へ。

喜れたという。
マン方はA4判、31頁で3000部発刊。避難所体験参加者に配るほか、市内の学校・市民館などに閲覧用に進呈し、市内医療機関や飲食店などにも声を掛ける予定。一般希望者には豊璋連が1冊100円で販売も。問い合わせはマンア（0663・53・31556）へ。

完成した防災ラジオドラマのマンガ編

$$= \chi \vee \psi \wedge \chi$$


平成 28 年 9 月 25 日(日)
中日新聞

避難所運営の体験を語る森所長＝豊橋市東新町のさくらピアで
障害者社会参加推進センター



避難所生活体験 障害者と一緒に

豊橋で始まる

豊橋市東新町の市障害者福祉会館さくらピアで二十四日、地域住

民や障害者が参加する一泊二日の避難所体験（中日新聞社後援）が始まった。

さくらピアを運営する「豊橋障害者（児）団体連合協議会」が毎年開き、八回目。宮城県障害者社会参加推進センター（仙台市）の森正義所長が東日本大震災での避難所運営体験について講話し、百人が耳を傾けた。

森所長は震災発生時、宮城県気仙沼市の福祉施設長で、利用者や近隣住民二百五十人を受け入れて、避難所を三十八日間運営した。津波の襲来を「強力なブルドーザーが十枚の壁になってやっ

障害者については、

大人数の中で暮らす避難所生活を敬遠する傾向にあることを挙げ、「ぜひ避難所に行って、自分の状況を伝えてほしい。どんな助けが必要かを知ってもらわないと、支援は進まない」と話した。

避難所宿泊で防災意識高める

豊橋さくらピアで
障害者ら参加 森氏が「3・11」を語る



豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」で24日、恒例の「避難所体験」が始まった。「話してみよう！あのときのこと、これからのこと」をテーマに25日まで、参加者が講演、避難訓練、宿泊体験など通して防災意識を高める。

(田中博子)

同館指定管理者の「豊橋障害者（児）団体連合協議会」主催、豊橋市共催で、東愛知新聞社など後援。福祉避難所である同館で障害当事者や家族、県内外の行政・福祉関係者、近隣住民らが一昼夜過ごして避難生活を検証する試みで、今年で8回目。障害当事者を主体とした継続的な防災啓発事業の東日本大震災の状況について語る森さん

取り組みは国内でも高評価を得ている。今年は198人が参加、宿泊も昨年より多い同館職員を含む90人が体験した。初日は、宮城県障害者社会参加推進センターの森正義所長が「3・11あのときのこと」の題で講演した。東日本大震災を気仙沼で被災し、勤務施設が38日間避難所になったという森所長。講演では、震災時から復興に至る様子を施設運営者や障害当事者、地域

などの事例を挙げて細かく紹介。「行政の障害者への支援を進めるためにも、障害のある人は多くの人がいる避難所に行き、行政に要求を出した方がいい」などと説いた。豊橋市消防本部の山田昭久氏が講話したほか、屋内での避難訓練と初期消火訓練にも取り組んだ。夜には防災レクリエーションや臨床福祉学博士の堀清和氏による、子どもや障害者の命を守る備えを考える講演会など実施し、体育館に宿泊。25日には朝食に非常食を試食した後、講評を行う。

平成 28 年 9 月 25 日(日)
東愛知新聞

う。施設は、事故を防止するための「同乗訓練」を定期的に実施。これまで男性

の運転に不備は確認されていなかった。コープあいちの担当職員は「職員の安

全や健康面について、改善点があれば対応していく」と話している。

障害者や家族防災意識高める

さくらピアで避難所体験

豊橋市障害者福祉会館さくらピアは、24、25日の2日間、同市東新町の同会館で「避難所体験」を開いた。障害のある市民や家族など約350人が参加。地震の発生を想定した避難訓練や、宿泊体験

を行って防災意識を高めた。

24日は、約120人が3階から1階へと避難する訓練を実施。夜間には、体育

館に寝泊まりし、災害時における必要な物資や行動などについて考えを深めた。同会館は、2009年度から、市民や障害者などが参加する避難所体験を開いている。宿泊体験は、参加者が個々に必要



防災ゲームを体験する参加者（障害者福祉会館さくらピアで）

な物資を持ち寄って実施。それぞれの事情や、環境に応じた問題点などを感じ取ってもらう内容としている。

今回は、11年の東日本大震災で被災した、宮城県気仙沼市の障害者施設の職員を招いた講演会も実施。被災後の体験談などに耳を傾けて、災害に備える重要性を学んだ。

また、楽しみながら防災について学ぶため、「防災ジャンケン」や「防災釣りゲーム」なども行い、参加者同士が交流しながら意識を深めた。同会館の本田栄子事務長は「日常生活の延長となるような訓練とした。障害者と災害について理解が深まってほしい」と話した。（佐々木雄紫）

障害者支援と防災活動の取り組み

災害時でも配慮・理解を

障害者の関係団体などが防災活動を通じて、市民に障害者への配慮や理解を深める取り組みを進めている。聴覚障害者の支援団体は、避難所で活用できるボードや絵カードの普及に励み、豊橋市障害者福祉会館さくらピアでは、ラジオドラマの脚本を漫画化して配布を始めた。分かりやすく目を見え、カードやマンガを広めることで、健常者と障害者の目に見えない壁が取り払われるフラットな社会の実現を願っている。

視点

■実用化へ内容を改訂
耳の不自由な障害者の支援活動などを行う豊橋市話通訳学習者の会（平松靖一



理解しやすい内容へ改訂したメッセージボードやカード（豊橋市内で）

郎会長）は今年9月、災害時に利用できる「お知らせ絵カード」や「コミュニケーションボード」などを改訂した。カードやボードは、2012年に聾（ろう）者などのメンバーで構成する市聴覚障害者協会のメンバーと共同で制作していた。改訂版は「飲料水」を「飲み物」「配布」は「配る」など変更。一見して理解できるように、内容に沿った絵も添付して災害時に活用しやすい内容へと変更した。

以降、避難訓練や勉強会などを定期的に開催。健常者と障害者の立場の視点に立った意見を交わし合い、より実用化できる改訂を行った。同会の平松会長は「聾者と健常者では、言葉の使い方や覚え方が異なる。正しく情報を伝えるため、何度も話し合っ

た。各ボードやカードは約5000セットを作り上げ、ポルトガル語やタガログ語など4カ国語で表記。一見して理解できるカードなどは災害時だけでなく、外国人への対応や幼児への教育など、さまざまな活用法が考えられる。カードなどの制作後は、地元の企業や病院、他自治体からも問い合わせが寄せられている。平松会長は「健常者が便利だと感じる物は、障害者にとって有効な物。ボードやカードをヒントにしてもいい、あらゆる機関や場所へ普及していったほうがいい」と願いを語る。セツトは避難所や関係団体などに配布する予定で、市のホームページにも掲載する予定。

■漫画化で問題点を問ひかける
障害者福祉会館さくらピア（東新町）では、9月に「防災ラジオドラマ」の脚本を漫画化し、避難所などに配布している。会館は14年に、避難所において障害者が困ることや、発生しやすい問題点をまとめたシナリオを作成。全国の防災コンテストで最優秀賞を受賞し、昨年には音声化したCDも発表していた。

マンガ編「障害者が避難所に来たら」は、障害者や関係者だけでなく、一般市民にも広める目的で制作。漫画家を志望する同市在住の後藤菜菜さん（23）が絵を描き上げた。身体障害者や知的障害者など6つのパートに分けて、避難所で起こり得る問題点などを紹介。「配慮？わがまま？」心配なのはトイレのこと」などの副題も付けて、障害者への災害支援や配慮について問ひかける内容としている。

近所の人などの顔を思い浮かべ、ちょっとした心配りや取るべき行動について考えを深めてほしい」と語る。さくらピアは会館の理念として「障害者の参加・つながり・遊び・生活を応援します」と掲げている。受け身ではなく、障害者が自ら発信してPRすることを重視して活動を行う。今年は新たな取り組みとして「防災タイム」を初開催した。会館を利用するグループやサークルを対象に訓練を実施。携帯電話でエレベーターが使えなくなる状況



漫画化した防災ラジオドラマ（障害者福祉会館さくらピアで）

下での避難経路などを確認し、利用者の防災意識を高めた。訓練の結果、参加した550人中81人が自力での避難が困難なことが判明している。会館は、障害者が日ごろ利用する店舗での行動などを、あらためて意識する取り組みを企画している。本田事務局長は「ぜひ他の公共施設でも行ってほしい取り組み。今後も楽しみながら、市民目線の企画やイベントを行って地域の防災力を高めていきたい」と話した。（佐々木雄紫）

◇◇◇ 2016 さくらピア防災活動 ◇◇◇

(1) 防災タイム (5月17日) 七宝焼きグループ



体育館から2階ベランダ避難所へ

(1) 防災タイム (6月5日) 視覚障害者テニス



体育館の非常口開錠方法の確認

(2) 親子防災教室 (7月30日) 防災頭巾作り・防災手話体験



100円均一の座布団2枚を縫い合せます



防災時によく使う単語の学習「電気」

(3) サマースクール (8月24日) こども防災



非常食体験 パッククッキング



防災釣りゲームで遊びながら防災学習

(4) 避難所体験 (9月24日～25日)



さくらピアは、平成 21 年から避難所体験を開催し、あきらめてばかりいた障害者に少しでも防災意識を持つ様に企画を実施してきました。5 回を経て「障害者の防災」は、福祉避難所だけではなく地域で共に考えるべき課題だと気づきました。2 年前の避難所体験で参加者が作成した防災ラジオドラマの脚本は、豊橋市が音声化、研修等で利用されています。今回はマンガ版を発行、一般市民への更なる啓発を視野に、今後も防災活動の発信基地としての取組を続けていきます。

豊橋市障害者福祉会館

さくらピア

避難所体験のあゆみ

①

②

		1日目 午後		1日目 夜		配布物
1	2009年	平成21年	「こどもはダウン症、母は耳が聞こえない」 東海豪雨被災体験 地震体験車 防災設備確認ラリー 避難訓練	平野千尋氏	プライベート間仕切り組み立て実演 防災グッズ紹介 「豊橋市の避難所状況」 障害者の防災を考える	VC 福祉保健課長
	2010年	平成22年	「阪神・淡路大震災、その時知的障害者は…」 地震体験車 避難訓練	霧島明美氏	防災グッズ紹介 障害者の防災を考える 防災紙芝居「おそろしい台風」	VC
3	2011年	平成23年	応急手当講習「三角巾の使い方」 避難訓練 はしご車	清水勝之氏 創造大学	南三陸町視察報告 障害者の防災を考える	本田栄子 防災カード
4	2012年	平成24年	「災害救助最前線」 大災害 その時役立つ知恵袋 防災なるほどクイズ カレー炊きだし体験	自衛隊 VC	防災講話 夜の避難訓練	中消防署
5	2013年	平成25年	「逃げ遅れる人々」 映画上映 バッククッキング 煙体験ハウス・地震体験車 防災グッズいろいろ	VC	ちょっと拝見みんなの非常持ち出し袋 夜の避難訓練 第18回防災まちづくり大賞 ☆総務大臣賞受賞☆	ハートリュック

第18回防災まちづくり大賞
☆総務大臣賞受賞☆

6	2014年	平成26年	「地域防災と障害者」 消防団 車いすダンスSHOW&逃げましょう 展示コーナー 煙体験ハウス	松下直弘氏 VC	防災ラジオドラマ 26年度 防災ラジオドラマコンテスト ☆最優秀賞☆	26年度防災功労賞 ☆内閣総理大臣賞☆	
7	2015年	平成27年	防災ラジオドラマに書ききれなかった思い 防災手話体験 避難訓練		防災レクリエーション他 27年度 防災ラジオドラマコンテスト ☆作品活用賞☆	わたぼうし 花菖蒲 VC	タオル
8	2016年	平成28年	講演 あのときのこと 避難訓練	森 正義氏	講演 これからのこと あそ防災 じゃんけん・釣りゲーム	防災教育チャレンジプラン 実践団体 堀 清和氏	マンガ

豊橋障害者(児)団体連合協議会

理事会【月1回】

評議員会【年1回】

理事 2名／各団体
評議員 2名／各団体

- ・ 豊橋市聴覚障害者協会
- ・ 豊橋市身体障害者(児)福祉団体連合会
- ・ 豊橋身体障害者協会
- ・ 豊橋精神障害者地域家族会
- ・ 豊橋市肢体不自由児(者)父母の会
- ・ 豊橋市手をつなぐ育成会

【自主事業】

- ・ 豊障連大会 (6月)
- ・ 納涼夏祭り (8月)
- ・ サマースクール (8月)
- ・ 避難所体験 (9月)
- ・ 体育祭 (10月)
- ・ 文化祭 (11月)

【委託事業】

- ・ 豊橋市障害者福祉会館さくらピア指定管理事業
- ・ とよはし総合相談支援センター運営事業(就労支援事業)
- ・ 喫茶路面電車事業
- ・ プラスチックリサイクル事業
- ・ 機能訓練事業

避難所体験報告書 は

さくらピアホームページからも

ご覧いただけます。(カラー版)

URL

<http://hosyoren.jp/sakurapia/>



さくらピア (豊橋市障害者福祉会館)



〒440-0812 豊橋市東新町15番地

TEL : (0532) 53-3153 FAX : (0532) 53-3200

E-mail : sakurapia@hosyoren.jp HP : <http://hosyoren.jp/sakurapia/>

開館 : 午前9時～午後9時 休館 : 月曜日、祝日 (月曜日が祝日の場合は翌日)